

昭和 48 年高松塚古墳調査時の 8 mm 映像の発見について

文化庁文化財部古墳壁画室

本年 2 月、昭和 48 年に撮影したと考えられる高松塚古墳調査風景等の 8 mm フィルムが、奈良文化財研究所において発見され、このたび、その DVD 化と内容の確認が完了した。

1. 8 mm フィルム映像の内容

昭和 48 年 10 月に行われた高松塚古墳の現地調査等の模様が記録されている。一部、昭和 49 年 8 月に行われた保存施設設置工事に伴う事前発掘調査の模様が含まれる。主な内容は以下のとおりである。（総撮影時間は約 31 分。）

- 石室（盗掘孔）の開封
- イタリア専門家の調査
- 石室閉封（以上昭和 48 年 10 月）
- 事前発掘調査（昭和 49 年 8 月）

当該フィルムの撮影者は不明であるが、おそらく奈良国立文化財研究所（当時）の所員の撮影と考えられる。

本映像により、今までスナップ写真や文章でしか知りえなかった高松塚古墳壁画発見当時の作業の様子が、動画としてより具体的に確認できる。

2. 現在までの経緯

平成 21 年 2 月に、奈良文化財研究所の職員が都城発掘調査部において、8 mm フィルム（「シングル 8」仕様、21 巻。）の存在を確認した。

奈良文化財研究所では、8 mm 映写機が使用できないため、業者に各フィルムを DVD 化する業務を委託した。これにより、当該 8 mm フィルムには、高松塚古墳をはじめ、川原寺、藤原宮、紀寺、大官大寺などの映像が含まれていることを確認した。本 DVD は、そのうち高松塚古墳関係部分を抜粋したものである。

(別紙)

高松塚古墳調査時の8mm映像の内容

タイム	作業内容	人物	日付
00 00	古墳開封作業 高松塚古墳周辺風景		昭和48年10月6～10日※
00 17	古墳案内板		
00 28	覆屋内部		
00 32	石室仮保護施設(覆屋)内部の格子戸を開く	三輪嘉六(記念物課技官)	
00 50	埋め戻し土の掘り起こし		
02 18	埋め戻し土を一輪車で搬出	三輪嘉六(記念物課技官)	
02 40	埋め戻し土を一輪車で搬出	扇谷弘尚(明日香村教育委員会文化財保護課長)	
石室開封準備			昭和48年10月10日
02 52	石室盗掘口のシートめぐり		
03 07	格子戸にビニール貼り		
マスコミ取材関係			昭和48年10月11日
03 24	マスコミ取材風景	関野克(東文研所長) 内山正(奈文研所長) 岸下利一(明日香村長) 有賀祥隆(美術工芸課技官) 原田拓(奈文研庶務課長)	
03 45	高松塚古墳周辺にたくさんの見学者		
04 00		関野克(東文研所長) 寺田春弐(委員) 守屋多々志(委員)	
04 07	美術工芸課長がコメント	濱田隆(美術工芸課長)	
04 12	関係者が休憩している		
04 36	マスコミ取材風景		

タイム	作業内容	人物	日付
05 09	壁面模写作業関係 模写班来訪	前田青邨(模写班総監修者) 平山郁夫(模写班委員)	昭和48年10月11日
05 28	イタリア専門家の調査 イタリア専門家ら来訪	岩崎友吉(東文研修復技術部長) パオロ・モーラ(ICR主任修復技術者) ラウラ・モーラ(ICR修復技術者) ジョパンナ・サンマルチーノ(ICR助手)	昭和48年10月12～17日※
05 41	石室内処置風景(筆を使ったクリーニング作業)	ラウラ・モーラ(ICR修復技術者)	
06 20	漆喰のpH測定(リマス試験紙による)	ラウラ・モーラ(ICR修復技術者)	
06 45	壁面に樹脂を塗布	パオロ・モーラ(ICR主任修復技術者) 岩崎友吉(東文研修復技術部長)	
07 49	天井の漆喰に樹脂を塗布	パオロ・モーラ(ICR主任修復技術者) 岩崎友吉(東文研修復技術部長)	
08 25	作業の説明をしている		
08 35	盗掘口から出てくる	八幡扶桑(奈文研写真技師)	
09 12	壁面の細部観察	ジョパンナ・サンマルチーノ(ICR助手)	
09 29	覆屋前		
10 00	記念撮影	石藤守雄(美術工芸課課長補佐) 扇谷弘尚(明日香村教育委員会文化財保護課長) 岩崎友吉(東文研修復技術部長) 絹谷幸二(臨時委員) パオロ・モーラ(ICR主任修復技術者) ラウラ・モーラ(ICR修復技術者) ジョパンナ・サンマルチーノ(ICR助手) 濱田隆(美術工芸課長) 他	

タイム	作業内容	人物	日付
10	24	イタリア専門家の調査 イタリア専門家への聞き取り	昭和48年10月12～17日※
10	46	イタリア専門家との意見交換	
11	37	現場から帰る風景	
11	53	石室内調査作業 作業風景	昭和48年10月12～17日※
12	19	作業風景	
12	36	作業風景	
12	53	盗掘口から機器を挿入	
13	24	石室閉封作業 盗掘口から石室をのぞく	昭和48年10月18日
13	37	玄武	
14	52	石室床面 (敷物・温度計・シャーレ)	
15	03	盗掘口を粘土で塞ぐ	
16	28	粘土で塞がれた盗掘口 「1973. 10. 18文化庁」と読める	
17	06	埋め戻し作業	

タイム	作業内容	人物	日付
17 52	<p>事前発掘調査</p> <p>保存施設建設のための機械室部分の発掘調査</p> <p>発掘調査風景 土層断面</p>	<p>猪熊兼勝(奈文研主査)</p> <p>伊藤勇輔(樞考研)</p> <p>八賀晋(奈文研室長)</p>	昭和49年8月5～14日※
21 10	政治家視察 視察風景		昭和48年10月13日
21 22	政治家来訪 古墳に向かう	<p>佐藤栄作(前首相)</p> <p>末永雅雄(樞考研所長)</p> <p>岸下利一(明日香村長)</p>	
22 50	覆屋前	<p>内山正(奈文研所長)</p> <p>石藤守雄(美術工芸課課長補佐)</p> <p>江本義理(東文研室長)</p>	
23 50	覆屋に入る		
24 17	覆屋からでる		
25 21	帰り道		
25 43	政治家視察 政治家来訪 古墳に向かう	橋本登美三郎(飛鳥議連会長・自民党幹事長)	昭和48年10月15日
27 00	覆屋前		
27 05	覆屋に入る		
27 14	覆屋からでる		
27 41	帰り道		

タイム		作業内容	人物	日付
28	42	関係者視察 関係者来訪	安達健二(文化庁長官) 倉田文作(文化庁文化財鑑査官) 米沢嘉圃(委員) 摩寿意善郎(委員) 内山正(奈文研所長)	昭和48年10月13日
30	28			

○ 表中の太線は撮影の切れ目(単位)と思われる箇所。

○ 人物欄の氏名の敬称略。所属・役職はいずれも撮影当時のもの。以下に用いた略称を示す。

委員・臨時委員：高松塚古墳保存対策調査会委員・臨時委員

ICR : イタリア国立中央修復研究所

美術工芸課 : 文化庁文化財保護部美術工芸課

記念物課 : 文化庁文化財保護部記念物課

東文研 : 東京国立文化財研究所

奈文研 : 奈良国立文化財研究所

樞考研 : 奈良県立樞原考古学研究所

飛鳥議連 : 飛鳥古京を守る議員連盟

○ ※印は、作業の内容から日付を特定できないため、該当期間で示した。



今回発見された 8mm フィルム (21 巻)